

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 681 2024年 7月号 1部60円 友の会会員は会費に含まれています 発行 東京勤労者医療会代々木病院 院長 河邊 博正 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7 TEL 03(3404)7661 http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi



地域の「交わり」が「支えをつくる」



メイン企画の公開討論 (左から司会の布施会長、パネリストの岡崎さん、河邊院長、柳田さん)

来場者でもおおいに賑わう 地元のみならず、さまざまな深める

5月25日、2024代々木病院健康まつりを開催しました。今年の健康まつりスローガンは「みなさんと支えあい、楽しく、元気にこのまちときずなを深めよう」ということで準備を進めてきました。当日は天気にも恵まれ、多くの地域の住民の方々、患者さん、友の会会員さんが来場され、会場はおおいに賑わいました。

オープニングは、和太鼓グループ「八鼓会」による笛や太鼓による演奏で華やかにスタートしました。東館駐車場では、各職場、友の会、地域団体のブースが並び、健康食材のおから入りお好み

焼き、やきそばなどの食べ物や、あしたばや産直野菜などの販売、豪華景品が当たる「福引」などで来場者に楽しんでもらいました。子ども向けコーナーでは、射的や輪投げ、スライムづくり、スーパースポーツなど、遊びに興じる子供さんたちの楽しそうな笑顔があふれ、とてもなごみました。その中でも、今回新たに「こども白衣体験コーナー」を企画し、白衣を身につけて、医師や看護師に変身した子どもさんの姿に周りから「かわいい」という声飛び交い、コスプレ大会のように大きく盛り上がりました。東館1階健診課では、体脂肪測定・血管年齢測定・筋力(老化度)測定や、医療介護相談など、東館3階多目的ルームでは、コーラスなどの文化行事、リハビリ部による「腰痛予防講座」、「くらしと健康」で連載もいただいている薬剤師の藤卒伊知郎さんによる「紅麴問題とサプリメントの付き合い方」など健康維持に役立つ講座を開催し、両会場での企画は参加者から好評を博しました。まつりの最後のメイン企画では、「いっしょに考えよう!地域の健康づくり」というテーマで公開討論を行いました。パネリストは河邊博正院長、患者サポートセンター医療相談員の柳田月美さん、(2面へつづく)



東館駐車場での企画テントにはたくさんの方が集まる

「セーフティネット」とは何か?改めて考えさせられます。新型コロナウイルスが法律論として「5類」になり、世の中の「空気感」で終わったことになりました。いまだにコロナにかかる患者さんはいらっしゃるし、職員も罹患しているのに、それと同時に、同時に起こった、あるいは顕在化した「不都合な真実」も忘れてしまいたい。無かったことにしてしまいたい。そんな感覚はないでしょうか?当時の日本の社会の空気感、起こった分断、それにより周縁化された人々を忘れず、より良くしてこそ医療従事者として働くことの価値だと考えています。▼6月に入り、みなさんの医療費はありましたか?従来2年ごとに行われる診療報酬の改定は、諸事情を鑑みられ、6月スタートとなりました。しかし、医療費だけではありません。電気代もあがります(正確には国の補助金が終了し、もともともどります)。物価や必要経費ばかりがあがり、一部の人を除いては所得がそれに見合うだけ上がらないというところが続いています。経済のかじ取りを誰に託すのか非常に重要になってきます。(つ)

千駄の萱

「セーフティネット」とは何か?改めて考えさせられます。新型コロナウイルスが法律論として「5類」になり、世の中の「空気感」で終わったことになりました。いまだにコロナにかかる患者さんはいらっしゃるし、職員も罹患しているのに、それと同時に、同時に起こった、あるいは顕在化した「不都合な真実」も忘れてしまいたい。無かったことにしてしまいたい。そんな感覚はないでしょうか?当時の日本の社会の空気感、起こった分断、それにより周縁化された人々を忘れず、より良くしてこそ医療従事者として働くことの価値だと考えています。▼6月に入り、みなさんの医療費はありましたか?従来2年ごとに行われる診療報酬の改定は、諸事情を鑑みられ、6月スタートとなりました。しかし、医療費だけではありません。電気代もあがります(正確には国の補助金が終了し、もともともどります)。物価や必要経費ばかりがあがり、一部の人を除いては所得がそれに見合うだけ上がらないというところが続いています。経済のかじ取りを誰に託すのか非常に重要になってきます。(つ)

施設・医療機器充実のために、資金募集にご協力ください

東京勤医会と代々木病院・診療所等への友の会の皆さまの日頃のご協力に心より感謝申し上げます。東京勤医会は東京・千葉・埼玉の3都県に31の事業所をおき医療活動をしています。貧困と格差の拡大や超高齢化という大きな課題を抱える社会状況の中で、入院の差額ベッドをいただく、「無差別・平等の医療・介護の実践」「総合的な医療・介護の質の向上」を目指しています。そして安心して住み続けられる地域づくりを友の会の皆さんと一緒に今後も続けてまいります。

これらの活動を行う上で病院・事業所の建物や設備・医療機器等の整備・購入は重要な課題であり、多くの資金を必要とします。東京勤医会の施設・医療機器の充実のために、友の会の皆さまに資金の協力をお願いします。昨年、特定協力借入金(有利息)の新規募集を再開し1億7千万円のご協力がありました。今年度も引き続き募集しています。また、地域協同基金(無利息)・寄付金も募集しています。多くの方々の応募をお願いします。(東京勤労者医療会経理部長 南隆子)



施設・医療機器充実のために

資金募集にご協力ください

資金募集要項: 寄付金、地域協同基金(無利息・無期限)、特定協力借入金(有利息・年利0.5%・期間5年)